

第26問 窃盗罪に関する次のアからオまでの記述のうち、判例の趣旨に照らし正しいものの組合せは、後記1から5までのうち、どれか。

ア Aは、Bに対して融資をする際、B所有の自動車をその融資金額でAに売り渡してその所有権をAに移転し、Bが融資返済期限に相当する買戻期限までに融資金額に一定の利息を付した金額を支払って買戻権を行使しない限り、Aが自動車を任意に処分することができるとする契約をBと締結したところ、Bが融資返済期限までに支払をせず買戻権を喪失したことから、Bに断ることなくBの自宅から同自動車を引き揚げた。この場合、Aに窃盗罪が成立する。

イ Aは、旅館に宿泊した際、宿泊者が宿泊中に使用するために客室内に備え置かれた浴衣を着て外出し、そのまま立ち去った。この場合、Aに窃盗罪ではなく横領罪が成立する。

ウ Aは、深夜、駐車場から、B所有の普通乗用自動車をBに無断で乗り出し、その後4時間余りの間、同自動車を乗り回し、元の場所にこれを戻した。この場合、Aに窃盗罪は成立しない。

エ Aは、公園内のベンチに約3時間座っていたBがボシュエットを置き忘れたまま立ち去ったのを目撃し、これを自分の物にしようと考え、Bがその公園から約20m離れたところを歩いているときに、その姿を見ながら、同ボシュエットを持ち去った。Bは、その後さらに約200m、約2分間歩いた先で同ボシュエットがないことに気付き、公園に戻ったが、既に同ボシュエットは見当たらなかった。この場合、Aに窃盗罪ではなく占有離脱物横領罪が成立する。

オ Aは、預金残高100万円であるB名義の銀行口座のキャッシュカードをBから盗み、同カードを現金自動預払機に挿入して100万円を引き出した。この場合、Aにキャッシュカードの窃取について窃盗罪が成立し、これとは別に100万円の引出しについて窃盗罪が成立する。

1 アウ 2 アオ 3 イウ 4 イエ 5 エオ

刑法：14
第26問

窃盗罪

窃盗罪に関する次のアからオまでの記述のうち、判例の趣旨に照らし正しいものの組合せは、後記1から5までのうち、どれか。

ア Aは、公園のベンチで隣に座っていたBがボシュエットを置き忘れたままベンチを離れ、当該ベンチから約27メートル離れた歩道橋まで行ったところで、当該ボシュエットを領得した。この場合、Aには、窃盗罪は成立しない。

イ 教員Aは、専ら校長Bを困らせる目的で、学校の金庫から重要書類を持ち出して、教室の天井裏に当該重要書類を隠した。この場合、Aには、窃盗罪は成立しない。

ウ Aは、運行中の列車内において、下車した乗客Bが置き忘れたB所有のカメラに気付く、これを領得した。この場合、Aには、窃盗罪が成立する。

エ Aは、梱包してある衣類の入ったケースをBから預かり保管していたところ、梱包を解き、衣類のみを取り出し領得した。この場合、Aには、窃盗罪が成立する。

オ Aは、B所有の自動車を数時間にわたって自己の支配下に置く意図の下にBに無断で乗り出し、4時間余り乗り回したが、使用後にBの元に戻しておいた。この場合、Aが使用後は当該自動車を返還する意思を有していたときは、Aには、窃盗罪は成立しない。

1 アエ 2 アオ 3 イウ 4 イエ 5 ウオ